

機能性作物

# 「チコリー」収穫試験

## とち財団 イモ用機械を応用

とち財団などは15日午  
前11時から、帯広市上清川  
町内の農場で人の体に良い  
とされる成分を多く含む洋  
菜「チコリー」の収穫試験  
を公開した。十勝農業の輪  
作体系に組み込めるよう大  
規模栽培に必要な機械化の  
実現を目指し、ジャガイモ  
の収穫機械を応用。課題が  
解消されれば、新たな高収  
益作物として期待される。

文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラム「とちABCプロジェクト」の一環で2009年に栽培試験を始め、同プロジェクト最終年度で一定の成果が見えてきたことから初めて公開した。

チコリーは欧州原産のキク科。根に水溶性食物繊維のイヌリンが含まれ、腸内環境改善、脂質代謝改善などの健康機能性があるとき

れる。イヌリンは製糖工場  
で抽出が可能でビート糖の  
製造体系の応用ができる。

収穫作業は機械を製造す  
る東洋農機(帯広市)と、  
上清川の清川農場を所有す  
る日本甜菜製糖総合研究所  
(同)の協力で40アールで実施。  
トラクターでけん引する機  
械で2畝ずつ莖葉をカット  
した後、ジャガイモで使う  
収穫機の刃を深掘りできる  
ように改良した機械で1畝  
ずつ根を掘り取った。課題  
の一つとなっている翌年に

雑草化して生えてくる「野  
良生え」を防ぐ方法を確立

期待する。(関坂典生)



チコリーの根の収穫作業を見る関係者  
(15日午前11時半ごろ、金野和彦撮影)

するため、取り残した根の  
量などを確認した。

同プロジェクトではこれ  
までにイヌリン入りのホエ  
ー(乳清)加工品やナガイ  
モ団子などの商品が開発さ  
れてきた。原料のチコリー  
は十勝産が少ないため欧州  
産にも頼らざるを得なかつ  
たが、同財団梅沢晃科学技  
術コーディネーターは「十  
勝での栽培が広がれば」と